

事後評価調査書

事業名	農空間整備事業（オアシス整備事業）「久米田池地区」			
所在地	岸和田市池尻町、岡山町			
事後評価理由	事業完了後概ね5年程度経過した事業(本事業は完了後3年目)			
事業概要	目的	本地区は府内で最大規模の水面積(45.6ha)を持つため池で、歴史的にも古く、狭山池と並び、大阪府の史跡に指定されており、地域の人々に親しまれている。 本事業では、農業用水の確保と災害の未然防止のために老朽化したため池を改修するとともに、歴史的背景や地域特性を生かした都市住民のオアシスとして、池周辺の歴史的景観・資源の活用と保全、アメニティ・コミュニティ空間の創造等、地域活動の拠点となり、地域住民に「うるおい」と「やすらぎ」を与える地域環境づくりを地域住民とともに創造することを目的とする。		
	内容	堤体工 376m、護岸工 2,640m、洪水吐工 1箇所、取水工 2箇所、浚渫工 1式、親水・修景護岸工 1式、遊歩道整備 1式、水質保全対策工 1式、植栽工 1式など		
	上位計画	ため池オアシス整備構想		
	関連事業	都市計画道路田治米畑町線（岸和田市事業）：池西側		
コスト分析	項目	計画時:a	実績:b	分析
	建設コスト(事業費)	事業費総額 19.0億円 (25.4億円) 内訳 国：50% 府：30% 市：20%	事業費総額 27.8億円 内訳 国：50% 府：30% 市：20%	$b/a=1.46$ (1.34) (主な要因) ・利活用施設の内容変更 ・浚渫の増加
	時間コスト(事業期間) 事業採択年度 事業着手年度 完成年度	5年 (11年) 平成3年度 平成3年度 平成7年度 (平成13年度)	12年 平成3年度 平成3年度 平成14年度	$b/a=2.4$ (2.2) (主な要因) ・池西側の都市計画道路との計画整合に時間を要したため ・久米田池環境づくり推進協議会:H3.11設立(久米田池土地改良区、池周辺の町会、寺総代、住民代表)と整備内容・維持管理方法の協議・調整に時間を要したため
	維持管理コスト	施設の補修等：岸和田市 清掃等日常管理：久米田池環境づくり推進協議会	施設の補修等：岸和田市 清掃等日常管理：久米田池をまもる会	地域住民による日常管理が定着しつつある

()は平成11年度再評価時の数値

事業を巡る社会経済情勢の変化	事業目的に関する諸状況	現状(計画時)	実績	分析
		<p>【災害防止】</p> <p>堤体・洪水吐は老朽化が著しい。このため、堤体・護岸・洪水吐等の整備により、ため池決壊による災害防止を図る。</p> <p>(整備内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤体工：250m ・護岸工：1式 ・洪水吐工：1箇所 ・取水工：2箇所 ・浚渫工：1式 <p>【地域環境づくり】</p> <p>利活用施設の整備により、地域住民に「うるおい」と「やすらぎ」を与える地域環境づくりを地域住民とともに行う。</p>	<p>堤体・護岸・洪水吐等の整備により、ため池の安全性が確保され災害防止が向上した。</p> <p>(整備内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤体工：376m ・護岸工：1式 ・洪水吐工：1箇所 ・取水工：2箇所 ・浚渫工：1式 	<p>所期の目的を達成。</p>
地元等の協力体制		<p>・事業目的に即した地元における組織はなく久米田池環境づくり推進協議会の設立。</p>	<p>・久米田池環境づくり推進協議会を設立して共に事業を進めてきたことにより、現在も地域住民を中心に維持管理等様々な活動がなされている。</p> <p>(活動内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の清掃活動の実施 ・地域の子供達への環境学習等の実施 	<p>地域住民とともに策定した整備計画に基づき、各施設の整備を行ったことにより、地域のニーズに合った「うるおい」と「やすらぎ」を与える環境が創造された。また、訪問者も増加している。</p> <p>(整備内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観施設 ・運動施設 ・生態系施設 ・自然観察施設 等 <p>地域住民とともに環境づくりを進めるといふ所期の目標を達成。</p>
		<p>事業完了後、左記協議会は解散し、新たに久米田池をまもる会が発足。維持管理の他にも多種の活動がなされ、定着しつつある。</p>		

	現状（計画時）	計画時の想定：a	
			備考
事業効果の定量的分析	費用便益分析	B/C= - (4 . 7 6) 便益総額 B= - 億円 (1 2 0 . 9) 費用 C= - 億円 (2 5 . 4)	・計画時では費用便益の分析手法が確立されておらず、算出できず。 主目的 ・災害防止効果 ・受益者 農家、周辺住民、利用者 ・費用便益算定の根拠 農林水産省で実施している「土地改良の経済効果」の手法より算出
	その他の指標（代替指標）	【1人当たりの訪問回数】	ため池の訪問回数が増加することが予想できる。
事業効果の定性的分析	安全・安心	【食料生産】	農業用水の確保により農産物を安定供給する。
		【転落防止】	転落防止柵の整備により、利用者の安全性を確保する。
	活力	【交流】	ため池環境コミュニティとして、久米田池環境づくり推進協議会を設立し、地域環境づくりへの参画を促すとともに、地域の交流を図る。
		【文化・伝統】	秋祭り（だんじり）や灯ろう会、無病息災を祈願するとんどまつり等の伝統的行事を次世代へ継承する。
	快適性	【景観】	修景護岸や植栽の整備により良好な景観を形成する。
その他	【教育・福祉】	地域の学校等のマラソン大会にトリムコースを活用する。また、地域の子供達の環境学習の場として活用する。	
自然環境等への影響と対策	・浅瀬が創出できる区域は水生植物帯を整備して、生きものの生育・生息空間を創出。 ・底泥の浚渫や流入水路（栄川水路）の生活雑排水の分離により水質を保全。		

()は平成11年度再評価時の数値

実績：b	分析	対策
B/C= 4 . 2 6 7 . 8 0 便益総額 B= 1 1 8 . 4 億円 2 1 6 . 8 費用 C= 2 7 . 8 億円 印は、レクリエーション向上効果及び水辺環境整備効果を含む	主目的 ・災害防止効果 ・レクリエーション向上効果 副目的 ・水辺環境整備効果 ・受益者 農家、周辺住民、利用者 ・費用便益算定の根拠 農林水産省で実施している「土地改良の経済効果」の手法より算出、但し、レクリエーション効果のみトラベルコスト法（京都大浅野教授監修）	特になし
【月平均訪問回数】 整備前 13.7回/月・人 整備後 23.1回/月・人 (H15.9.17,20：オンサイト調査回答者127)	訪問者1人当たりの月訪問回数が増加した。	
同左	所期の目標を達成	特になし
同左	所期の目標を達成	
左記協議会から久米田池をまもる会へと交流活動が継承され、清掃活動等が行われている。また、桜まつりなどのイベントにより交流が図られている。	所期の目標を達成	
同左	所期の目標を達成	
同左	所期の目標を達成	
地域の学校はもとより、久米田池をまもる会により子供会、自主学习団体等へ幅広く環境学習の場が提供されている。	所期の目標を達成	
・浅瀬を整備したことで、鳥類等の生息場所を確保。 ・流入水路の生活雑排水を分離したことで、池の水質が改善 流入部COD H 5.10. 4：25 . 1 mg/ H15. 9.29： 6 . 8 mg/		
その他(今後の事後評価の必要性、同種事業への改善措置など)	・計画時に想定した災害防止効果は十分に得られている。 ・久米田池をまもる会を中心に、清掃活動や環境学習、文化交流等、地域住民の自発的な活動が定着しつつあるが、これらを根付かせるためには、地域住民・行政（府・市）の協働が当面必要である。	